

レベル  
0

# よつかい となりの妖怪



## てんじょうねこ

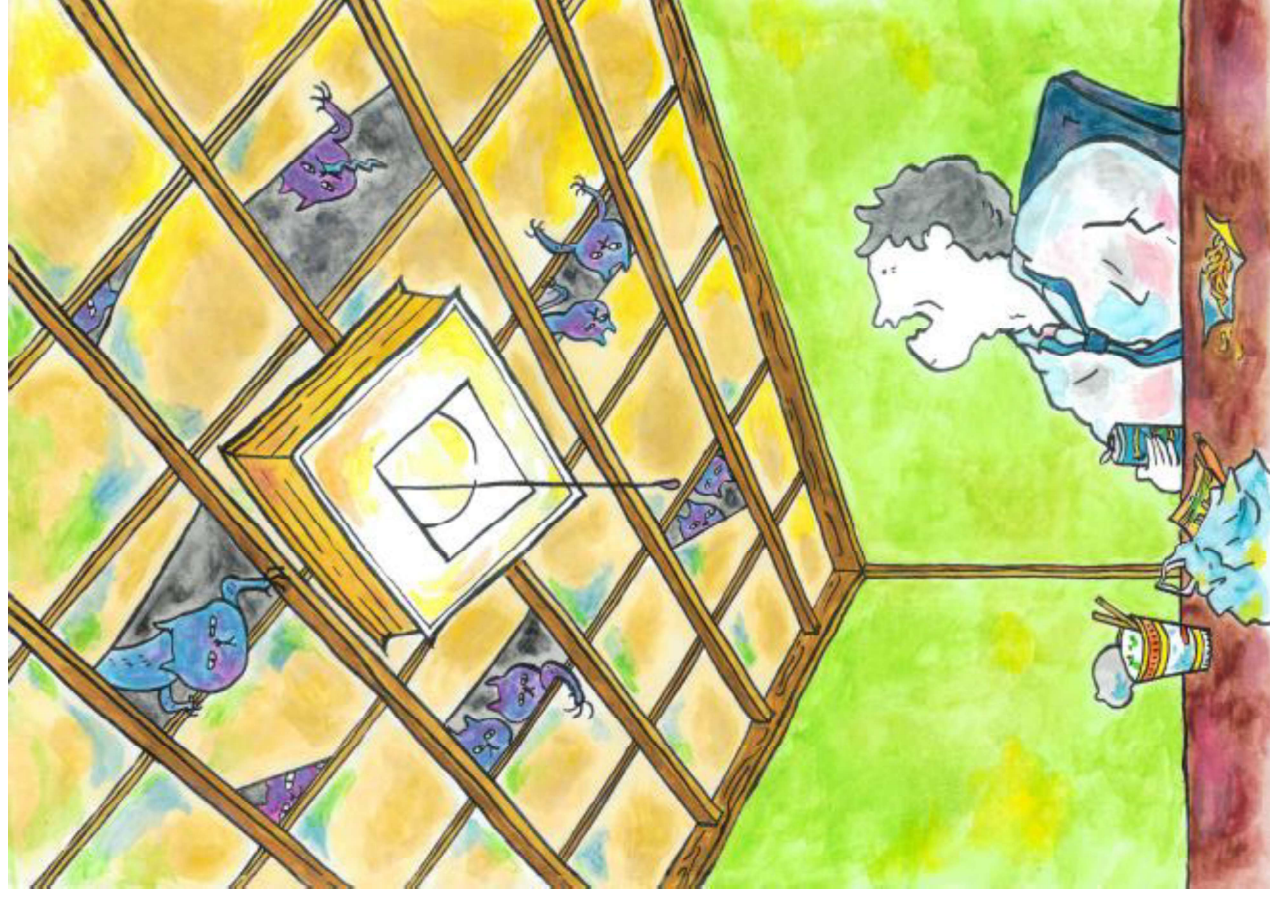
さむ 寒い夜、てんじょう 天井から「にやあ」と声こえが  
き 聞こえます。

びっくりして上うへを見みます。

ねこ 猫たちが私わたしを見みて、また  
「にやあ」。

いちど 一度上うへを見みます。もう猫ねこはいませ  
ん。

「てんじょうねこ」というようかい妖怪やうかいです。





## うきわぼうず

あつ なつ ひ あめ  
暑い夏の日。雨がたくさん降って、  
こうずい  
洪水になりました。

いそが  
まちのひとたちは、とても忙しいで  
す。

ひとり みず なか  
「うきわぼうず」は一人だけ水の中  
で、うきわで泳いでいます。

「すずーい、すずーい」と言っています。  
す。

「とてもたのしい」と言っています。

「うきわぼうず」をみ見て、まちの人た  
ちもたのしいです。



## おちやにこおり

あつ なつ よる だいどころ ちい ちい おとこ こ  
暑い夏の夜、台所に小さい男の子が  
た 立っています。

わたし み 私を見て「おちやにこおり、おちや  
にこおり」と言いました。

ちい 小さいコップを持っています。

ちや こおり い お茶と氷を入れると、いなくなりま  
した。





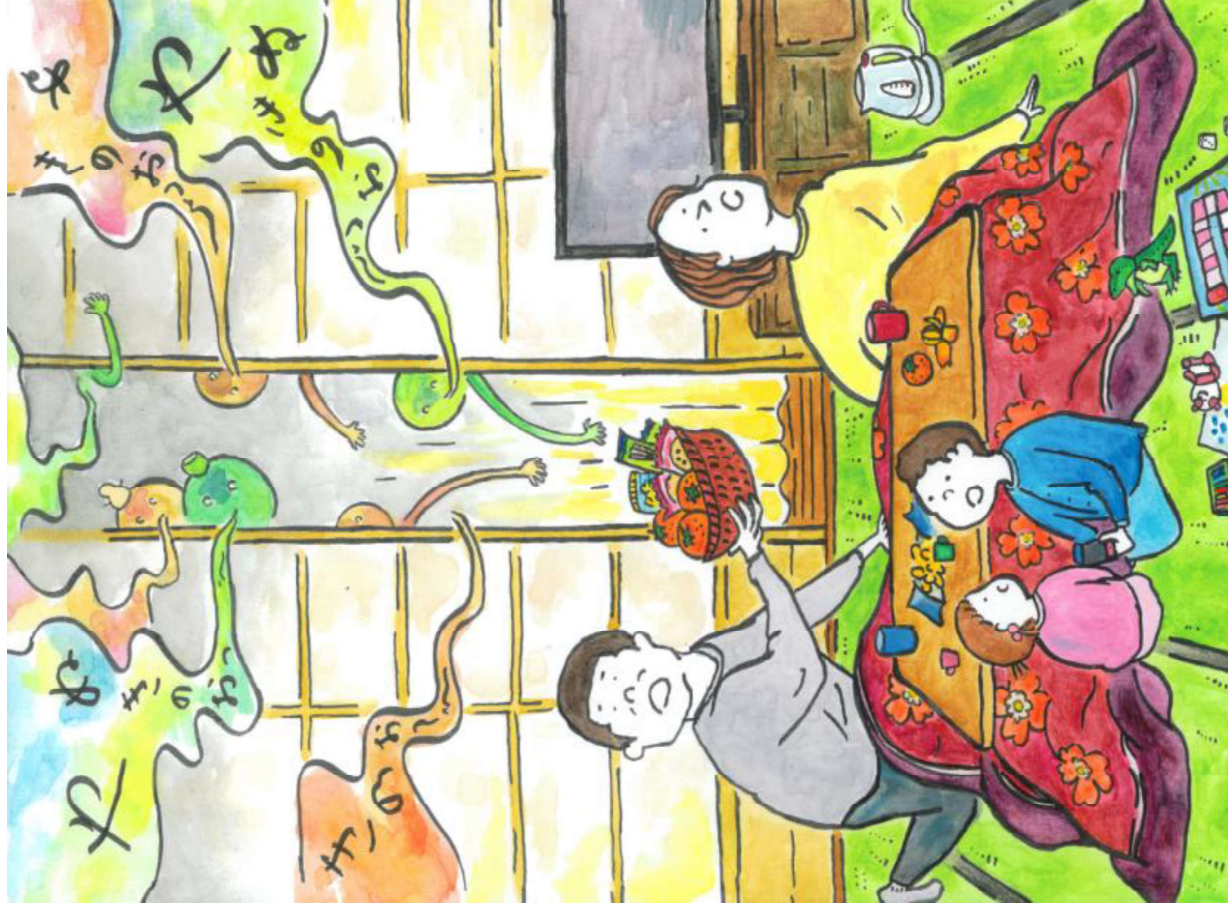
## やぬきのおつ

ふゆ 冬の夜、<sup>よる</sup>「やぬきのおつ、やぬきのおつ」という声<sup>こえ</sup>が聞こえます。

「おやつをください」と言<sup>い</sup>っている声<sup>こえ</sup>です。

ちい 小さいこどもたちの妖怪<sup>ようかい</sup>です。

※「おやつ」：le gouter



## かたたたき

だれかがお母さんの肩をトントンたたきます。

やさしい妖怪「かたたたき」は肩をトントンして、お母さんを起こしました。

起きてとなりを見ると、子どもがとても寒いです。

お母さんは子どもにも毛布をかけました。



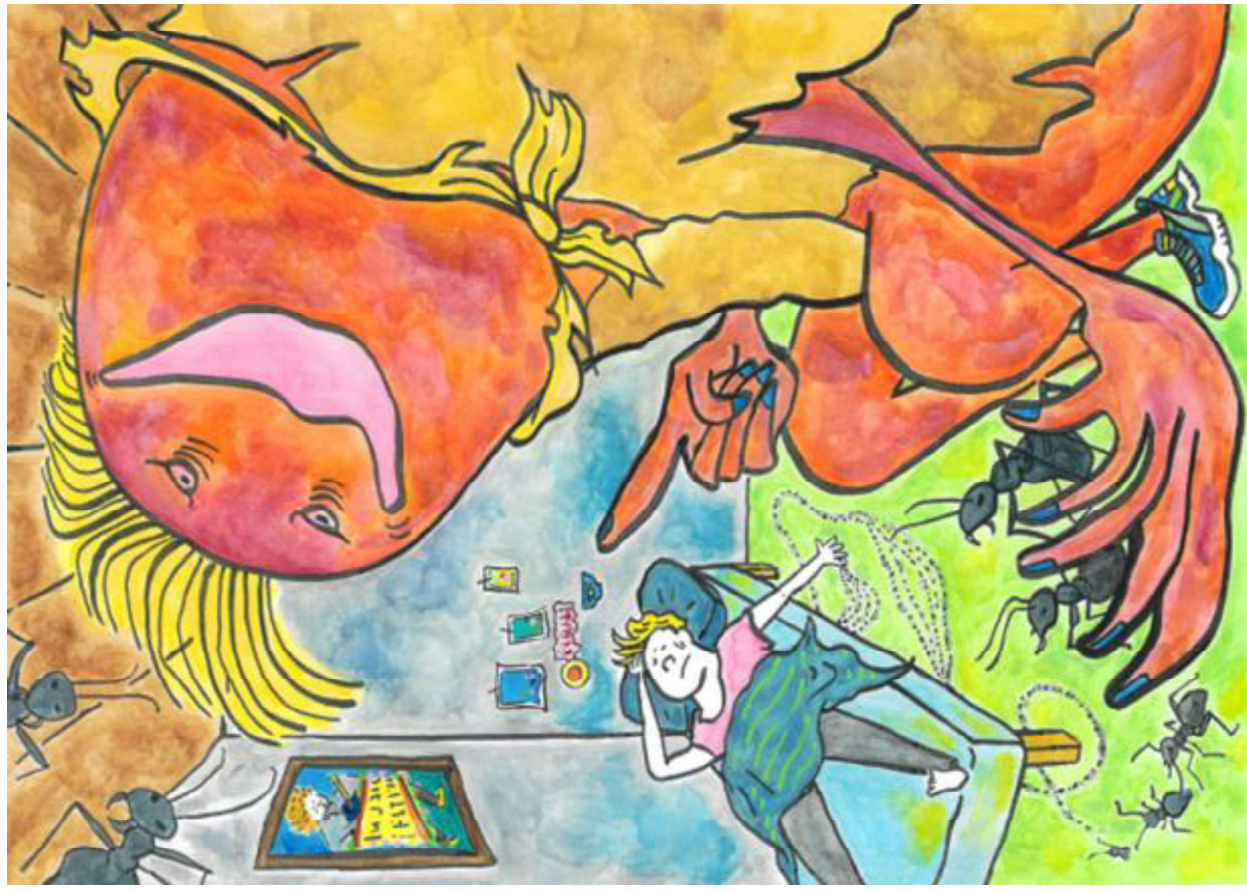


## ありのみち

「手がいたい」と思<sup>おも</sup>って目<sup>め</sup>が覚<sup>さ</sup>めまし  
た。

たくさんのありが私<sup>わたし</sup>の手<sup>て</sup>を食<sup>た</sup>べてい  
ます。

「ありのみち」という妖<sup>よう</sup>怪<sup>かい</sup>が、ありた  
ちに「この手<sup>て</sup>を食<sup>た</sup>べてください」と言<sup>い</sup>  
ったからです。



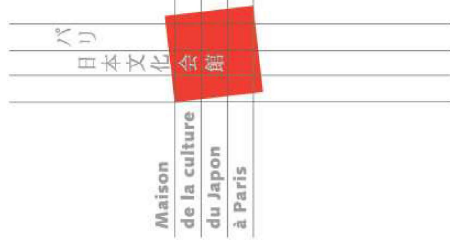
# となりの妖怪 ようかい

2024年9月1日発行

編著：三浦多佳史

挿絵：中川歩美

監修：MCJUP ぼくよむ文庫制作チーム



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部